

1071の2

	昭 20
	10 9
	24 28
通信隊長	大泊第一作業大隊
大尉	オハハ 經由
鈴木利高	ポートワニ 入「ソ」
	大泊第四作業大隊
	ポトワニ
	”

0976



107202

								至自
								20 20
		10	9	9	9	9	9	8 8 8
		22	下	23	25	18		18 17 9
連隊長		"	"	大泊第一作業大隊	"	豊原第三作業大隊	作業大隊に編入	停戦
少佐		大三作業大隊	第二作業大隊	オハ	ウラヂオ	ポトワニ經由		第七中隊
小山国治		ポトワニ	"	"	"	入「ソ」		九里
		"	"	"	"			九里
								戦斗参加
								千輪街武解
								20 8 10

0978

1078

						至自	昭	年 月 日
						2020	20	
10	9	9	8	8	8	8	2	
						8	2	8
	20	25		22	15	9		2
隊	長	上	佐	菅	沼	広	之	
<p>大泊第五作業大隊</p> <p>大泊将校大隊</p> <p>大泊作業大隊に編入</p> <p>豊原において武装解除</p> <p>停戦</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>「修理小隊</p> <p>「勤務小隊</p> <p>兵器勤務隊本部</p> <p>編成</p>						<p>軍令陸甲第三四号により編成下令</p> <p>第五方面軍要員を基幹として上敷香において編成完結</p> <p>爾後部隊は豊原に移駐し同地区の警備並に兵器修理に従事</p>		略
<p>ウラチオ 經由 入「ソ」</p> <p>ポートワニ 入「ソ」</p>						<p>略</p>		歴
								摘要

第八八師団兵器勤務隊 略歴

通称号 要二二九五七部隊

略

歴

摘要

0979

年月日	略歴	摘要
昭和20年2月28日	<p>軍令陸甲第三四号により編成下令 第五方面軍要員を基幹として上敷香において編成完結</p> <p>編成</p> <p>第八八師団衛生隊本部並に車輛中隊は豊原に移駐、同地区の警備</p> <p>衛生隊長 少佐 横山 給八郎</p> <p>車輛中隊長 中尉 掛上 延正</p> <p>担架第一中隊及び本部衛生機関一部と車輛中隊の一部は大泊に移駐、歩兵第三〇六大連隊に配属、同地区の警備</p> <p>担架第一中隊長 大尉 山田 隆 栄</p> <p>担架第二中隊及び本部衛生機関の一部と車輛中隊の一部は、古屯、気屯、八方山に移駐、歩兵第一二五連隊に配属、同地区の警備</p> <p>担架第二中隊長 中尉 池田 輝 男</p> <p>担架第三中隊及び本部衛生機関の一部と車輛中隊の一部は、留多加二俣に移駐</p> <p>歩兵第二五連隊に配属、同地区の警備</p>	

0980

至自 2020				至自 2020						昭 20	
8	8	8	8	9	8	8	8	8	8	8	
23	28	22	20	15	19	18	17	9	10	24	
逢坂武装解除 停戦				八方山にて武装解除 上敷香第五三一作業大隊に編入 担架第三中隊				担架第二中隊は歩兵第一二五連隊に配属、古屯、気屯、八方山附近战斗に参加 停戦		担架第一中隊は三〇六連隊に配属战斗せず 豊原において武装解除 豊原第一作業大隊に編入 担架第二中隊	
担架第三中隊は歩兵第二五連隊に配属、真岡、熊笹峠、宝台附近の战斗に参加 停戦				担架第三中隊長				中尉		趣智一三	
豊原において武装解除 停戦				担架第一中隊長				中尉		趣智一三	

0981

107408

					昭 20
					9 10 11 11 10
					25 下 3 2
					作業大隊編入
				豊原第一作業大隊	ナホトカ 經由 入「ソ」
				第二作業大隊	ポトワニ " 入「ソ」
				第五三二作業大隊	豊原 樺太内收容所 入「ソ」
				大泊将校大隊	ポセツト 入「ソ」
	隊長				
	少佐				
	横山				
	給八郎				

0982





昭 20					昭 18		年月日	特設警備第三五一大隊略歴 通称号 要第二二一〇部隊	
8	8	8	8	8	7	6			概要
25	24	19	15	9	25	24			
<p>爾後全員解散し部隊としての行動をせずソ「軍」の労役に従事したものもある。</p> <p>大隊長 大尉 斉藤豊重</p>					<p>軍令陸甲第五八号により編成下令</p> <p>樺太大泊において編成完結</p> <p>常置人員将校六名、下士官一名</p> <p>爾後大泊において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわたり短期間教育召集を実施</p> <p>日「ソ」開戦、防衛召集実施、所在地付近の警備</p> <p>停戦と同時に常置人員を残し他は部隊解散</p> <p>再度防衛召集し引揚援助治安に任ず。</p> <p>防衛召集者解除</p> <p>樺太大泊において武装解除</p>		要		

1077

							年 月 日			
昭 20							昭 18			
8	8	8	8	8	8	8	7	6		
24	23	17	16	15	9		25	24		
<p>昭20年9月15日「ソ」開戦、防衛召集実施、陣地構築準備に任ず            停戦            常置人員を残し全員部隊解散            防衛召集者を再召集し引揚援助治安に任ず            防衛召集者全員召集解除            常置人員は豊原において武装解除            爾後全員解散し部隊行動をせず「ソ」軍の労役に従事したものである。</p>							<p>昭18年7月6日            軍令陸甲第五八号により編成下令            樺太豊原において編成            常置人員 将校四名下士官九名            爾後豊原において濬備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し短期間数度にわたり教育召集実施</p>		<p>特設警備第三五二大隊略歴            通称号 要第二二二一部隊</p>	
<p>大隊長 大尉 中 込 祐 二</p>							<p>概 要</p>		<p>摘 要</p>	

0985

		昭 20		昭 18	年月日	概 要	摘 要
8	8	8	7	6			
11	10	9	25	24			
<p>じ上敷香気屯、古屯等各所の軍事施設を破壊</p>		<p>日「ソ」開戦、防衛召集実施</p>		<p>軍令陸甲第五八号により編成下令 樺太豊原において編成</p>		<p>特設警備第三五三大隊略歴 通称号 要第二二二一二部隊</p>	
<p>上敷香到着、同地にあつた特設警備隊をその指揮下に入れ同地一帯の警備に任</p>		<p>所在地付近の警備、陣地構築作業に従事（同部隊の内約二八〇名は歩兵第二五</p>		<p>常置人員 将校七名、下士官一六名</p>			
<p>豊原出発</p>		<p>連隊豊原特設警備隊に編入された。）</p>		<p>爾後豊原において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し数度にわた</p>			

0986

	8	8	8	8	8	8
	23	22	19	18	16	15
<p>大隊長 中佐 岸 武 一 郎</p>	<p>ある。</p> <p>爾後全員解散し部隊としての行動をせず一部「ソ」軍の労役に従事したものである。</p>	<p>豊原において武装解除</p>	<p>防衛召集者再召集したが同日解散</p>	<p>豊原に帰着し奥地よりの引揚者の保護に任じた</p>	<p>常置員同地を出発</p>	<p>ごろより第八八師団経理部の物資輸送に協力、後常置員を残し全員部隊解散</p>
						<p>停戦</p>

昭 20					昭 18		年月日	概 要
8	8	8	8	8	7	6		
24	20	17	15	9	25	24		
<p>昭20年8月9日「ソ」開戦、防衛召集を実施し陣地構築および海岸警備に従事                      停戦                      常置人員を除き全員部隊解散                      防衛召集者再召集し爆撃後の整理に従事                      真縫において武装解除                      爾後全員解散し部隊としての行動せず「ソ」軍の労役に従事したのもある。                      中隊長 中尉 笹森 蔵一</p>					<p>昭18年7月6日 軍令陸甲第五八号により編成下令                      樺太真縫において編成完結                      常置人員 将校二名、下士官四名                      爾後同地において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し短期間教度に                      わたり教育召集を実施</p>			
							摘要	

特設警備第三〇一中隊略歴

通称号 要第二二二一三部隊

昭 20						昭 18		年月日	特設警備第三〇二中隊略歴 通称号 要第二二二四部隊
8	8	8	8	8	8	7	6		
26	23	19	16	15	9	25	24		
昭 20 停戦 常置員を除き全員解散 防衛召集者を再召集し引揚者のための警備に従事 防衛召集者全員部隊解散 常置員は榮浜において武装解除後「ソ」軍の労役に従事したのもある。 中隊長 大尉 山崎 源之助						昭 18 軍令陸甲第五八号により編成下令 樺太榮浜において編成完結 常置人員 将校一名、下士官三名 爾後同地において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人に対し短期間数度にわたり教育召集を実施 日「ソ」開戦、防衛召集実施、榮浜において港湾施設ならびに鉄道施設の警備		概	要
								摘要	

昭 20				昭 18		年 月 日	概 要
8	8	8	8	7	6		
18	12	10	9	25	24		特設警備第三〇三中隊略歴 通称号 要第二二二一五部隊
<p>再び爆撃、市街各所に火災あり同日市街地婦女子避難            停戦命令下令、同日部隊解散</p> <p>中隊長 大尉 中垣重男</p>				<p>軍令陸甲第五八号により編成下令            樺太恵須取において編成完結</p> <p>常置人員 将校一名、下士官三名</p> <p>爾後同地において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人を短期間教度にわたり教育召集を実施</p>			
<p>日「ソ」開戦、防衛召集実施、「ソ」連飛行機一機照明弾を投じ市街地偵察            小規模の爆撃あり。</p>							
							摘 要





昭 20							昭 18		年 月 日	概 要
9	8	8	8	8	8	7	6			
6	27	20	16	15	9	25	24			
<p>真岡において部隊解散（常置員を除く）</p> <p>「ソ」軍真岡上陸により歩兵第二五連隊仲川少佐の指揮に入り交戦 山中を川上炭山に転進</p> <p>同地において武装解除、「ソ」軍の労役に従事したものもある。</p> <p>中隊長 大尉 広木 護 郎</p>							<p>軍令陸甲第五八号により編成下令</p> <p>樺太真岡において編成完結</p> <p>常置人員 将校三名、下士官五名</p> <p>爾後同地において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人を短期間数度にわたり教育召集を実施</p> <p>日「ソ」開戦、防衛召集実施、同地付近の警備および陣地構築に従事</p> <p>停戦</p>		特設警備第三〇五中隊略歴 通称号 要第二二二七部隊	
										摘 要

昭 20						昭 18		年 月 日	概 要
8	8	8	8	8	8	7	6		
24	23	20	16	15	9	25	24	特設警備第三〇六中隊略歴 通称号 要第二二一八部隊	
防衛召集者解除 (常置員を除く) 再度防衛召集者を召集し避難民の輸送および治安に任ず 防衛召集者部隊解散 常置員武装解除し爾後「ソ」軍の労役に従事したものである。 中隊長 大尉 大地 裕次郎						軍令陸甲第五八号により編成下令 樺太本斗において編成完結 常置人員 将校二名、下士官四名 爾後同地において警備業務に従事するとともに現地在郷軍人を短期間効度にわたり教育召集を実施 日「ソ」開戦、防衛召集実施 停戦			要
								摘 要	

				昭 20			昭 18	年月日	特設警備第三〇七中隊略歴 通称号 要第二二一九部隊			
				8	8	8	8			7	6	
				21	16	15	9			25	24	
				<p>昭20年8月21日「ソ」開戦、防衛召集を実施し陣地構築および警備に従事す            停戦            常置員を除き全員部隊解散            常置員西能登呂において武装解除後「ソ」軍の労役に従事したものである。            中隊長 大尉 布目 孝喜</p>					<p>昭18年7月25日            軍令陸甲第五八号により編成下令            樺太西能登呂において編成完結            常置人員 将校一名、下士官二名            爾後同地付近において警備に従事するとともに現地在郷軍人を数度にわたり短期間教育召集実施</p>		概	要
									摘要			

昭 20			昭 18		年月日	概 要
8	8	8	7	6		
16	15	9	25	24		
<p>海馬島において全員部隊解散</p> <p>中隊長 大尉 宮本 徹也</p>			<p>軍令陸甲第五八号により編成下令</p> <p>樺太海馬島において編成完結</p> <p>常置人員 将校一名、下士官三名</p> <p>爾後同地付近において普備業務に従事するとともに現地在郷軍人を短期間数度にわたり教育召集実施</p>			
<p>停戦</p> <p>日「ソ」開戦、防衛召集実施</p>						摘要

## 特設警備第三〇八中隊略歴

通称号 要第二二六〇部隊

昭 19		昭 20		年月日	概 要	摘 要
8	9	8	8			
17	15	11	9			
<p>軍令陸甲第一二八号により編成下令 樺太内路において編成完結</p> <p>常置人員 将校一名、下士官五名</p> <p>函後同地付近において警備に従事するとともに現地在郷軍人を短期間教度にわたり教育召集実施</p>		<p>日「ソ」開戦、防衛召集実施、陣地構築および警備に従事</p> <p>一部を内路に残し他は上敷香において第八八師団軍需物資輸送、残留者は飛行場破壊に従事</p> <p>停戦</p> <p>内路、上敷香所在部隊は同地において部隊解散</p>		<p>隊長 中尉 成田繁松</p>		

第三〇一特設警備工兵隊略歴

通称号 要第一三六三一部隊

概

要

摘要

1088

昭 20			昭 19		年月日	概 要
8	8	8	10	9		
	17	15	9	15	8	<p>第三〇二特設警備工兵隊略歴</p> <p>通称号 要第一三六三二部隊</p>
<p>隊長 中尉 亀山辰吾</p>	<p>大谷において武装解除、同日部隊解散</p>	<p>停戦</p>	<p>日「ソ」開戦、防衛召集実施、陣地構築および警備に従事</p>	<p>たり教育召集を実施</p>	<p>爾後同地付近において警備に従事するとともに現地在郷軍人を短期間数度にわたり教育召集を実施</p>	
						<p>軍令陸甲第一二八号により編成下令</p>
						<p>樺太大谷において編成完結</p>
						<p>摘要</p>

0997

昭 20			昭 19		年 月 日	第三〇三特設警備工兵隊略歴 通称号 要第一三六三三部隊	
8	8	8	10	9			概
16	15	9	15	8			
<p>大沢にて部隊解散</p> <p>隊長 大尉 宮脇 量</p>			<p>軍令陸甲第一二八号により編成下令</p> <p>樺太大谷において編成完結</p> <p>常置人員 将校一名、下士官五名</p> <p>爾後同地付近の警備とともに現地在郷軍人を短期間致度にわたり教育召集実施</p> <p>日「ソ」開戦、防衛召集実施、豊原大沢飛行場警備ならびに補修作業に従事</p> <p>停戦</p>		<p>概要</p>		
					摘要		

				年月日	概 要	摘 要
			昭 20			
8	8	8	5			
23	15	9	20			
<p>「ソ」軍の豊原進駐と共に解散</p> <p>隊長 中尉 雨谷泰秀</p>				豊原において編成		
<p>常置人員 将校一名、下士官四名</p> <p>爾後同地在郷軍人を短期間効度にわたり教育召集実施</p> <p>日「ソ」開戦、防衛召集実施にともない在郷軍人を召集するとともに所在中等</p> <p>学校の上級生および青年学校の生徒を召集、豊原女学校にありて主として遊撃</p> <p>戦闘の訓練を実施</p> <p>停戦、防衛召集者召集解除</p> <p>常置員のみ残務に任じた。</p>						

豊原地区第一特設警備隊略歴

通称号 要第三〇一二六部隊



				昭 20	年 月 日	豊原地区第二特設警備隊略歴 通称号 要第三〇一二七部隊
	8	8	8	5		
	16	15	9	20		
	<p>豊原において編成</p> <p>常置人員 将校一名、下士官四名</p> <p>爾後同地在郷軍人を短期間数度にわたり教育召集実施</p> <p>日「ソ」開戦、防衛召集実施にともない在郷軍人を召集するとともに所在中等学校の上級生および青年学校生徒を召集し陣地構築、地区警備に従事す。</p> <p>停戦</p> <p>豊原において部隊解散</p> <p>隊長 少尉 和田 進</p>				概	要
						摘 要

			昭 20	年 月 日	概 要	
	8	8	8			5
	16	15	9			20
<p>隊長 中尉 市川 正</p>			<p>樺太本斗において編成</p> <p>常置人員 将校一名、下士官三名、兵一名</p> <p>爾後同地在郷軍人を短期間数度にわたり教育召集実施</p> <p>日「ソ」開戦、防衛召集実施にともない在郷軍人を召集するとともに所在中等</p> <p>学校の上級生および青年学校の生徒を召集し沿岸警備等に従事す。</p> <p>停戦</p> <p>本斗において武装解除、同日部隊解散</p>			
					摘 要	

豊原地区第三特設警備隊略歴

通称号 要第三〇一二八部隊

			年月日
			昭 20
8	8	8	5
16	15	9	20
<p>豊原地区第四特設警備隊略歴</p> <p>通称号 要第三〇一二九部隊</p>			
<p>隊長 中尉 田中正司</p>			<p>概要</p>
<p>真岡郡蘭泊において部隊解散</p> <p>停戦</p> <p>学校の上級生および青年学校生徒を召集、真岡付近の警備、陣地構築に従事</p>			<p>要</p>
			<p>摘要</p>

			昭 20	年 月 日	概 要
			5		
8	8	8	20		
16	15	9			
<p>隊長 少尉 佐々木 竜 松</p>			<p>樺太大泊において編成</p> <p>常置人員 将校一名、下士官五名、兵一名</p> <p>爾後同地在郷軍人を短期間数度にわたり教育召集実施</p> <p>日「ソ」開戦、防衛召集実施にともない在郷軍人を召集するとともに所在中等</p> <p>学校の上級生および青年学校の生徒を召集、陣地構築作業等に従事す。</p> <p>停戦</p> <p>大泊において部隊解散</p>		
					摘 要

## 豊原地区第五特設警備隊略歴

通称号 要第三〇一三〇部隊

				昭 20	年 月 日	豊原地区第六特設警備隊略歴 通称号 要第三〇一三一部隊
				5		
8	8	8	8	20		
				樺太知取において編成	概 要	
				常置人員 将校一名、下士官三名 爾後同地付近の在郷軍人を短期間効度にわたり教育召集実施		
				日「ソ」開戦、防衛召集実施にともない在郷軍人を召集するとともに所在中等 学校の上級生および青年学校の生徒を召集、陣地構築、沿岸警備等に従事	摘 要	
				知取において部隊解散 停戦		
				隊長 少尉 原田 理喜三		

						昭 20	年 月 日	豊原地区第七特設警備隊略歴  通称号 要第三〇一三二部隊
8	8	8	8	8	5	概		
23	17	15	11	9	20			
<p>常置員部隊解散 隊長 大尉 松 永 拡</p> <p>防衛召集者、召集解除</p> <p>停戦</p> <p>歩兵第一二五連隊に協力し古屯において軍需物資輸送</p> <p>同地付近の警備、鉄橋の警備に任ず。</p> <p>学校の上級生および青年学校生徒を召集。</p> <p>爾後同地在郷軍人を短期間効度にわたり教育召集実施</p> <p>日「ソ」開戦、防衛召集実施にともない在郷軍人を召集するとともに所在中等</p>						樺太敷香において編成 常置人員 将校一名、下士官五名、兵一名		
						摘 要		

					昭 20	年 月 日	豊 原 地 区 第 八 特 設 警 備 隊 略 歴
					5		
8	8	8			8		
23	20	15			9		通称号 要第三〇一三三部隊
<p>樺太恵須取において編成</p> <p>常置人員 将校三名、下士官兵七名</p> <p>爾後同地在郷軍人を短期間数度にわたり教育召集実施</p> <p>日「ソ」開戦、防衛召集実施にともない在郷軍人を召集するとともに所在中等</p> <p>学校の上級生および青年学校生徒を召集。</p> <p>沿岸の警備および陣地構築に従事す。</p> <p>恵須取において停戦</p> <p>防衛召集者、召集解除</p> <p>常置員部隊解散</p> <p>隊長 中尉 由木 昇</p>							概
							要
							摘 要

			昭 20	年 月 日	豊原地区第九特設警備隊略歴 通称号 要第三〇一三四部隊
			5		
8	8	8	20		
17	15	9	樺太泊居において編成 常置人員 将校一名、下士官三名 爾後同地在郷軍人を短期間数度にわたり教育召集実施 日「ソ」開戦、防衛召集実施にともない在郷軍人を召集するとともに所在中等 学校の上級生および青年学校生徒を召集、陣地構築作業に従事 停戦 泊居において部隊解散	概	要
隊長 少尉 川久保 京一				摘要	



至自		昭		昭		昭		昭		年 月 日	独立野戦高射砲第二三中隊略歴	通称号 達第一〇二七部隊	
		20		19		19		16					
9	9	8	8	8	8	5	5	11	10				5
11	1	20	15	9	12	10	1	未	27	26	1	19	
<p>                     東部第七四部隊において編成完結                      樺太敷香へ移動                      爾後敷香において防空警備                      樺太敷香出發                      中千島新知島上陸警備                      同島出帆                      得撫島上陸（三島湾に駐屯）                      得撫島出帆                      択捉島上陸（天寧に駐屯）                      陣地構築、陣地偵察および進入路の構築作業                      日「ソ」開戦                      停戦                      天寧飛行場において武装解除                      択捉島第一、第二作業大隊に編入                 </p>													
											略	歴	摘要





				昭
				20
		10	8	8
		7	28	23
				9
				爾後同地にありて兵舎建築滑走路補修、警備ならびに輸送業務に従事 日「ソ」開戦 幌筵島磐城において武装解除 幌筵島第一九作業大隊に編入 柏原出發入「ソ」 隊長 大尉 桂 太郎

1101

昭										昭	年	要塞陸上勤務第七中隊略歴
20										18	月	
10	8	8	8	8	4	6	6	5	5	日		
7	28	28	18	9	15	8	2	26	10	編成下令	略	通称号 達第九五四部隊
<p>旭川において編成完結</p> <p>北海道小樽出發</p> <p>北千島幌筵島柏原到着</p> <p>爾後同地において陣地構築に従事</p> <p>北海道転進の命をうけたが輸送の関係で待機</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>「ソ」軍占守島に上陸とともに幌筵島北の台飛行場の守備にあたった</p> <p>幌筵島警城において武装解除</p> <p>幌筵島第一九作業大隊に編入</p> <p>柏原出發入「ソ」</p> <p>中隊長</p> <p>大尉 久能外四次</p>										歴		
										摘要		

1012



110202

			昭
			20
	10	8	8
	7	28	28
	<p>一部柏原残置者は停戦により幌筵島において武装解除        幌筵島第一九作業大隊に編入        柏原出發入「ソ」</p> <p>中隊長</p> <p>大尉 西河原兼吉</p>		

1014

		昭和												年		
		20												19		
		9	9	9	8	8	8	7	4	12	6	5	5	4	月	
		1	26	23	21	29	15	9	2	12	2	1	12	11	29	日
		<p style="text-align: center;">独立臼砲第一五大隊略歴</p> <p style="text-align: center;">通称号 達第一二三〇四部隊</p>														
		<p>略歴</p> <p>横須賀において編成完結</p> <p>北方警備のため横須賀出發、中千島に向う</p> <p>松輪島警備</p> <p>大隊主力は南千島に転進（本部、第一中隊、大隊段列）</p> <p>大隊主力択捉島警備</p> <p>第二中隊も南千島転進、色丹島警備</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>停戦</p> <p>主力は択捉島天寧飛行場において武装解除</p> <p>択捉島第二作業大隊に編入</p> <p>択捉島出發</p> <p>「ポートワニー」經由入「ソ」</p> <p>第二中隊の行動</p> <p>色丹島「アナマ」において武装解除</p>														
		<p>摘要</p>														



1108の2

			昭
			20
		9 9 9	
		15 9 8	
		「ポートワニー」經由入「ソ」	色丹島第三作業大隊編入
	隊長		色丹島出發
	大尉		
	島森		
	晃		

1016

昭												昭	年	月	日	略	歴	摘要
20												19						
10	9	9	8	8	8	6	6	5	5	4	4	12						
18	16	1	23	18	9	12	7	14	11	25	12		勤員下令	通称号	達第一二四〇部隊	独立白砲第一八大隊略歴		
	占守島出發	占守島第六作業大隊に編入	占守島三好野飛行場において武装解除	「ソ」軍占守島国端崎付近に上陸、交戦	日「ソ」開戦	第一中隊は千島温彌古丹島へ移駐、同島警備	占守島上陸、同島警備	小樽港出帆	小樽着	和歌山出發			和歌山県加太町において編成完結					

昭								
20								
10	9	8	8	8	8	8	8	8
1	26	25	23	23	13	6	1	1
第一中隊の行動								
占守島転進の命をうけ四ヶ梯団に分れ移駐準備								
第一梯団、第二梯団は占守島に到着、本隊に合流								
第三梯団は出帆後米機動部隊と遭遇しこれと交戦、一隻のみ幌筵島に到着他は海没								
同島で武装解除								
第四梯団は転進せず温彌古丹島において武装解除後幌筵島に移送								
幌筵島第一七作業大隊に編入								
幌筵島出発								
「ポートワニー」經由 入「ソ」								
隊長								
大尉 小椋 源 一								

昭										年	月	日	独立白砲第一九大隊略歴				
20														19	4	4	略
8	8	8	3		7	7	5	5	4								
23	20	9			19	14	17	12	25	12	略	歴	摘要				
<p>「キ」号作戦により第二中隊主力は占守島に一部を幌筵島に残置 日「ソ」開戦</p> <p>本部および第一中隊の若干の人員を残し（残置部隊は武蔵に駐屯） 主力は占守島に転進</p> <p>占守島所在部隊は占守島三好野飛行場に集結、武装解除</p>										<p>中部第九動員二号下令</p> <p>和歌山県加太において中部第七五部隊応召者をもつて編成完結</p> <p>和歌山出發</p> <p>北海道小樽着 約五〇日駐屯</p> <p>小樽港出發</p> <p>幌筵島柏原上陸</p> <p>本部</p> <p>第一中隊……武蔵</p> <p>第二中隊……樺鉢</p>							

						昭		
						20		
						12	11	9
						8	30	28
						2	27	1
						占守島第一五作業大隊に編入		
						占守島出発		
						「ナホトカ」經由入「ソ」		
						〇		
						幌筵島残置部隊の行動		
						磐城集結 武装解除		
						幌筵島第二〇作業大隊に編入		
						幌筵島出発		
						「ナホトカ」經由入「ソ」		
						隊長		
						大尉 横田辰三郎		

		昭 20				昭 19				年
		9	9	8	8	8	8	7	7	月
		23	19	16	29	20	15	9		日
<p>中隊長 大尉 井上 義治</p>		<p>「ソ」軍天寧上陸 天寧飛行場に移動、同所において武装解除 根捉島庄司作業大隊に編入 天寧出発 樺太大泊経由入「ソ」</p>				<p>停戦 日「ソ」開戦 爾後同地付近において防空、陣地構築作業に従事 千島根捉島天寧着 根室出発 根室到着 小倉出発、陸路北上 小倉において編成完結（編成人員約一〇五名）</p>				<p>野戦機関砲第六七中隊略歴 通称号達第一二五三一部隊</p>
		概要		摘要						

至自												昭	昭	年 月 日	独立戦車第五中隊略歴			
												20	19					
10	10	10	9	8	8	8	6	5	5	5	5	4	7			23	16	15
<p>「ポートワニー」經由入「ソ」</p> <p>得撫島出帆</p> <p>得撫島第五作業大隊に編入</p> <p>部隊（北海道転進者を除く）は東雲原において武装解除</p> <p>停戦</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>部隊は一部北海道に転進</p> <p>千島列島得撫島に上陸、同日より同地付近の警備</p> <p>小樽出港</p> <p>第四二師団長の隷下に入る</p> <p>札幌において編成完結</p> <p>軍令陸甲第四一号により編成下令</p>														略	通称号 達第一二六〇五部隊			
<p>中隊長</p> <p>少佐 隅 倉 秋 寿</p>																略	歴	摘 要